
教員の指導力向上を図る取組事例 ● もくじ

1

事例 1

県教育委員会・市教育委員会・専科教員・小学校が連携して、
小学校教員の指導力向上を図る

～英語教育強化地域拠点事業における事例～

(福井県教育委員会・勝山市教育委員会・勝山市立成器西小学校)

..... 186

2

事例 2

小学校教員の指導力向上に向けた

外国語(英語)教育中核教員研修の充実

～英語教育推進リーダー中央研修・研修実習の事例～

(川崎市総合教育センター)

..... 192

3

事例 3

巡回教員や専科教員(コーディネーター)、

兼務教員等を活用して、小学校教員の指導力向上を図る

～宮若市、宗像市、糸島市における事例～

(福岡県教育委員会)

..... 196

4

事例 4

校内研修サポート教材の開発・提供による

校内研修の充実を通して小学校教員の英語力・指導力向上を図る

～自分たちで進める校内研修の事例～

(福岡県教育センター)

..... 200

5

事例 5

小学校教員の指導力向上を目指した小小連携・小中連携の取組

～小小連携・小中連携の事例～

(京都市立大藪小学校・京都市立久世西小学校・京都市立久世中学校)

..... 204

県教育委員会・市教育委員会・専科教員・小学校が連携して、小学校教員の指導力向上を図る

～英語教育強化地域拠点事業における事例～

(福井県教育委員会・勝山市教育委員会・勝山市立成器西小学校)

福井県では、県内東部に位置する勝山市を英語教育強化地域拠点とし、小・中・高等学校で13校の研究校において、平成26年度より小中高一貫した英語教育の改善に資する取組を行っている。本稿では、13ある研究校の中でも、特に9つの小学校における教員の指導力向上を図る校内研修の取組と福井県教育委員会及び勝山市教育委員会による支援について述べる。

1 福井県教育委員会による取組や支援

(1) 担当指導主事による定期的な訪問指導

本県では、英語教育強化地域拠点事業の取組における最重点課題を「授業改善」とし、各小学校で年間2回の授業公開、公開に向けた全校体制での事前検討会、及び授業後の研究協議会を実施した。この際、県教育委員会英語担当指導主事が学校を訪問し、指導助言を継続的に行った。

事前検討会では、授業者がプレ授業公開を行い、その授業の様子を全教員が参観した上で、その様子と公開当日の指導案をもとに、授業の進め方について議論した。また、授業公開後の研究協議会では、授業者の振り返りをもとに話し合いのテーマを決定し、少人数のグループに分かれての討議と全体への報告会を行った。

1つの小学校につき年間4回の訪問、9つの小学校で年間計36回の訪問と、指導主事はかなり頻繁に訪問指導を行うことになるが、結果として、各小学校の教員と継続的に関わり、支援することができる。そのため、研究の進捗を確認しつつ、教員一人一人指導力向上を図ることができると思う。

(2) 地元大学との連携強化

研究校が授業改善に向けた研究を進めるに当たって、県教育委員会担当指導主事による支援や指導助言のほかに、福井大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学といった地元大学の英語教育を専門とした教授等からも継続的に指導を受けている。いずれも現職に就く前に、小・中・高等学校等において指導経験があり、英語教育の理論、実践的な指導法について、学校の実態を踏まえた分かりやすい指導を受けることができている。

また、福井大学、仁愛大学には、教員養成課程・コースがあり、本県の小学校教員において、この2つの大学出身者の占める割合が高い。大学教員にとって、研究校を定期的に訪問指導することは、小学校における英語教育の実態を知り、学生に対する指導に生かす貴重な機会となっている。一方、両大学で指導を受けた学生が、将来、本県の教員として活躍することを考えると、これは教育委員会や学校としても大きな財産である。したがって、地元大学との連携の強化・継続は、大学と教育委員会の双方にとってのメリットが大きいと考える。

なお、小学校教員にとっては、大学教授と直接に連絡を取り合うことは敷居が高いと思われるため、県教育委員会担当指導主事が大学教授との間に入り、連絡を取るようになっている。また、指導主事が大学を訪問したり、学校訪問の前後に話し合いの時間をもったりして、指導主事と大学教授とで、学校への指

指導言の方向性について確認するようにしている。指導主事と大学教授が統一した見解をもって学校への指導助言を行うことで、学校が安心し、自信をもって授業改善に取り組むことができたと考える。

(3) その他の支援

県全域が統一された方向性で小学校英語教育を推進していくためには、県教育委員会と市町の教育委員会とが密接に連携することも欠かすことができない要素である。英語教育強化地域拠点である勝山市教育委員会の担当指導主事（現勝山市の小学校教諭）と頻繁に電話やメールでやり取りしたり、時には双方が訪問したりして、互いに事業の進捗状況を確認し合い、成果や課題を共有したことは、本事業の推進において非常に大きな役割を果たした。

勝山市で活用している専科教員との連絡・相談体制も重要である。市町教育委員会では、必ずしも英語専門の指導主事が配置されているわけではないため、日常的に小学校で指導している専科教員の悩みや質問に対して、県教育委員会の英語担当指導主事が対応することは、効果的であると感じている。

また、教員の多忙化解消も重要な課題の1つである。例えば、事前検討会と校内研修を兼ねて開催するなどして、少しでも会議の時間短縮、回数の縮減を図るようにした。このように、校内研修に県教育委員会の担当指導主事が参加することによって、その小学校における校内研修の様子を実際に確認することができるため、授業づくりに対する指導助言に加えて、他校の校内研修の様子も伝えながら、校内研修の進め方についても、適宜助言することができた。

その他、県教育委員会による支援として、報道機関に対する各小学校における取組の紹介、文科省における連絡協議会等での発表や教員研修センター（現教職員支援機構）主催の「小学校における外国語教育指導者養成研修」における授業公開など、積極的な広報・周知が果たす効果についても挙げておきたい。このような実績は、県内外に広く勝山市の取組を知ってもらうよい機会となるだけでなく、勝山市ひいては県内の小学校教員のモチベーションの向上にもつながっていると感じている。

2 勝山市教育委員会による取組や支援

(1) 市教育委員会の強力なリーダーシップ

勝山市教育委員会では、「英語教育をぜひ勝山市の特色に」との市長の意向も受け、教育長はじめ職員全員が「英語教育を変える」という強い願い・意思をもってスタートした。そのことが、市内各学校の積極的な取組とその方向性を決定付け、大きな成果につながったと言っても過言ではない。教育長、指導担当課長、担当指導主事がそれぞれの立場から各小学校を支援しており、各学校の授業改善に向けた校内研修等の取組が充実したものとなっている。

① 教育長及び指導担当課長の積極的な学校訪問

教育長は、本事業の指定を受けた平成26年度からこれまで、学校教育課長とともに、数多く学校に足を運んだ。公開授業を参観するだけでなく、可能な限り事後研究会にも参加し、大学教授や県教育委員会指導主事の指導助言に耳を傾け、授業改善の方向性を現場教員とともに学んだ。時には、学校長や教員たちに率直な意見を述べたり激励の言葉を掛けたりすることにより、校内研修を含む各校の取組を力強くサポートしてきた。公務が多忙を極める中でも、スケジュールを調整し、学校訪問を優先することで、現場に「勝山市の英語教育改革に対する本気度」を見せたのである。リーダーが文字通り、足を使い、汗をかく姿勢を見せた効果は絶大であり、各学校の管理職以下、教員全員が本気になって取り組む体制が市全体で構築された。

② 県教委と各学校の調整、パイプ役としての役割

勝山市教育委員会の担当指導主事が果たした最大の役割は、県教育委員会と各学校の間で、意見の調整役となり、それぞれの業務の軽減を図ったことである。市教育委員会の指導主事は、各学校の研究推進の進捗を把握し、成果や課題をまとめて県教育委員会に報告するとともに、県教育委員会の意向を各学校に伝達した。加えて、報告書の取りまとめや、授業公開の日程調整等の事務作業を請け負うことにより、各学校の負担を軽減し、教員が研究に集中できる環境づくりに大きく貢献している。

(2) 他教科等との連携を意識した授業づくりについての指導助言

県教育委員会の担当指導主事が英語の専門的分野についての指導助言を行う一方で、勝山市教育委員会の担当指導主事は、教科・領域の枠組みを超えた観点から授業づくりについての指導助言を行っている。その結果、ある小学校では、3年生の算数で学習する「表とグラフ」の単元と、外国語活動(『Hi, friends! 1』Lesson 5 What do you like?)を連携させた授業が生まれた。外国語活動の授業でクラスの友達の好きなものを調査し、その結果を使って算数の授業で表や棒グラフを作成するというシンプルな活動ではあるが、このような発想は英語を専門とする指導主事からはなかなか出てこない。英語の専門ではないが、他教科等の指導にも通じた市教育委員会の指導主事だからこそ、生まれた好例の1つと言えよう。

3 専科教員の役割と取組

小学校英語教育の早期化・教科化に当たっての課題の1つとして、多くの小学校教員が自身の英語力と英語の指導法に不安をもっているということが挙げられる。そこで勝山市では、中学校英語担当教員1名を専科教員として小学校に配置するとともに、市費で2名の支援員を任用した。これら3名が全小学校を巡回しながら、学級担任とチーム・ティーチングを行い、教科の専門性を生かした指導を行うとともに、学級担任の英語力や指導力の向上に向けた取組を行った。

専科教員の主な取組

- ・各学年の年間指導計画、学習到達目標の整備
- ・評価の観点、評価規準等、評価に関する枠組みの設定
- ・評価テスト(リスニング・スピーキング・簡単なライティング)とスピーキングテストの実施方法の作成
- ・チーム・ティーチングにおけるT1またはT2としての役割
- ・学級担任が単独で授業するための支援
- ・小学校教員の英語力向上を図るための校内研修の計画・実施
- ・支援員との連絡会(毎週)で、各校の現状把握と統一した支援について協議

勝山市の専科教員は、英語教員としての専門性と、小学校教員の特性や児童の発達段階に応じた指導法を融合しながら、小学校教員や児童に過度の負担とならないように配慮して上記の取組を進めている。専科教員は、教育委員会の担当指導主事と比べ、小学校教員と日常的に関わり、同じ目線で教員の悩みや課題に向き合えることが強みであり、この点を生かすことで、小学校教員の指導力を着実に向上させることができると考える。

4 小学校における校内研修の取組

ここでは、研究校の1つである勝山市立成器西小学校の校内研修の取組を紹介しながら、研修の質を向上させるポイントについて述べる。

(1) 管理職を中心とした職員全員で取り組む風土作り

勝山市立成器西小学校では、研究校としてスタートするに当たり、平成 26 年当時の学校長が、3 ～ 6 年の担当教員だけでなく、全校体制で校内研修を行うことを決定した。学校長自身、英語が専門ではなかったため、研究の推進に当たって不安に思うことも多くあったそうだが、大学や県及び市教育委員会の方針に従いながら、「校内研修においては、校長・教頭も共に学び、全職員が一緒に考えること」、「できるだけ校内を巡回して、外国語活動や外国語科の授業を観て感じたことを伝えること」「校長自らが英語のラジオ講座を毎日聞いて英語力を高めること」の 3 つを自らに課し、全職員が一丸となって取り組む風土づくりに尽力した。校内研修の際、授業について協議する場面では、決してトップダウンの雰囲気をつくらぬよう心掛けた。また、デジタルカメラを手に校内を巡回しながら授業の様子を記録し、授業者に写真を見せながら授業づくりについて話し合うことも多くあった。このような学校長の配慮や工夫により、全教員で授業改善に取り組む姿勢が、自然にできあがったと言える。さらには、「毎日ラジオ講座を聞くことで、自分の英語の耳が育ってきていると感じている。私たち教員は、教える立場である以上、苦手でも取り組まなければいけない」と、教員に強く呼びかけるなど、管理職として、硬軟織り交ぜながら教員の士気を高めた。

平成 28 年からは、後任の学校長が、前任の体制を土台とし、「若手教員にチャンスを与え、中堅・ベテラン教員がその成長を支える学校づくり」を目指して、校内研修を更に発展・活性化させるための工夫を行っている。平成 28 年度には、教員研修センター（現教職員支援機構）主催の「小学校における外国語教育指導者養成研修」において、成器西小学校が授業公開を行ったが、その際、学校長は、中堅・ベテラン教員ではなく、敢えて若手教員を授業者として選出した。その理由を学校長は、「全国の先生に授業を観ていただくというのは、教師にとって大きな成長の場であり、授業者には今後長く授業を持つ若手教員にその活躍の場を与えたい。同時に、遠路はるばるお越しいただく参観者に、よい授業を観ていただく必要もある。そこで、当日の授業に向けては、管理職とこれまでに成長を遂げた中堅教員を中心とした全教員で一丸となって、その若手教員を全力でバックアップしていく」と述べている。

小学校教員の指導力向上を目指す校内研修の推進においては、管理職の強力なリーダーシップや組織マネジメント力が欠かせない。例に挙げた成器西小学校を始めとして、勝山市の研究校においては、管理職自らが積極的に研究に関与し方向性を決定していくものの、研究の具体は、教員の自主性に任せるという風土が根付いており、管理職が替わっても研究が継続している。

(2) 校内研修の実践

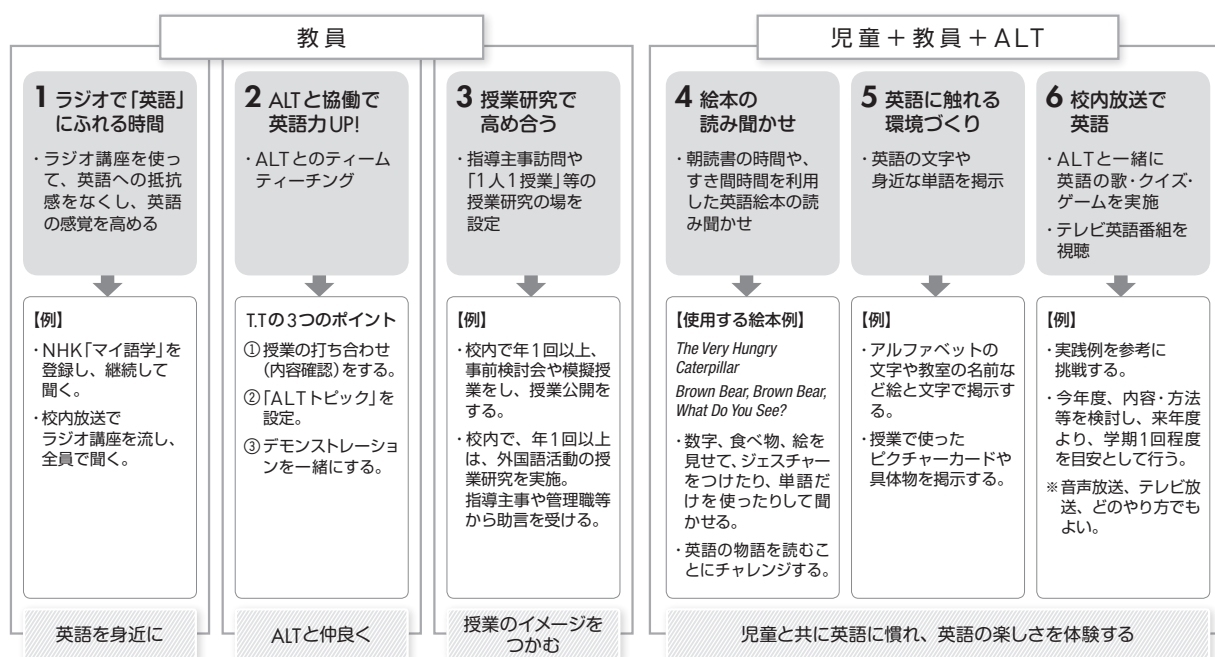
成器西小学校では、英語教育の改善を目指した校内研修を月 2 ～ 3 回開催している。福井県教育委員会が作成した『学校全体で取り組む小学校英語教育推進プロジェクト ―スクラム―』（図表 1）を参考に、教員の英語力と授業力の向上に向けた研修が進められている。

① 授業の進め方

外国語活動及び外国語科の授業の進め方については、多くの小学校教員が不安に思うところである。成器西小学校では、年間 2 回の授業公開を授業づくりの方向性を決めるよい機会と捉えた。この授業公開は、福井県内全域から、校種を問わず多くの教員が参観に訪れるため、授業者や研究担当の教員だけでなく、学校全体で組織的に取り組むことになる。研究指定等がなくても、このように大きな授業公開の場を設定することは、授業の構想や指導案の書き方、授業の進め方等、授業づくりの議論を全教員で共有することができるよい機会となる。

授業公開に向けた第 1 回目の研究会では、授業者から、単元の構想と具体的な授業の進め方が示され、

ス すべての教員が ク 工夫しながら ラ 楽しく ム 無理なく続ける プロジェクト



〈図表 1〉「スクラム」全体像

ほかの教員がそれぞれに意見を出し合うことからスタートする。第2回では、その意見を取り入れた指導案が示され、授業の進め方や指導案の書き方について検討する。第3回は、授業者による校内授業公開と協議会を行う。この回には、大学教授や県教育委員会の英語担当指導主事を招き、専門的な見地から助言していただき、当日の授業プランをより洗練されたものとする。校内授業公開を参観した上で協議会を行うことで、参加教員は、実際に観た授業や子供たちの様子に基づいて、授業で「すべきこと・しなくてもよいこと」「できそうなこと・今回は少し無理があること」などの意見を述べることができる。第4回は、締めくくりとして、授業後の振り返りのための研修を行う。

こうした研修では、すべての参加教員が当事者意識をもって臨むことが大切である。

授業の進め方に係る校内研修の例

- 第1回：授業者から、単元構想・当日の授業の進め方を聞いて話し合う
- 第2回：第1回を踏まえた指導案をもとに、授業の進め方、指導案の書き方を検討
- 第3回：校内授業公開の実施と、外部指導助言者を迎えた指導案の検討
- 第4回：授業後の振り返り

② 評価の在り方についての検討

教科化に当たっては、評価の在り方全般について十分に議論する必要がある。特に、研究開始の初年度には、この点について専科教員を中心に議論を交わした。

「記述による評価」と「数値による評定」のどちらがよいか、「授業中の観察と評価テスト、パフォーマンステストの割合」をどうするか、「どのように評価したらよいか」などについては、教員の間で意見が分かれるところであった。そこで、福井県教育研究所がまとめた「福井県版 CAN-DO リスト」を参考に学校独自の CAN-DO リストの作成に取り組み、同研究所の所員からの助言を得ながら、徐々に形を整えることで、教員の評価に対する共通理解を図っていった。「評価・評定」については、様々な議論を経て、勝山市

全体で、「4 観点による 3 段階の評定」を行うことに決定した。

なお、勝山市では、各学校の代表教員から成る「評価検討委員会」を設置して情報共有を行っており、学校間で評価に対する見解に大きな違いが出ないように工夫している。評価検討委員会で得られた情報については、各学校において校内研修の場で伝達するなどして、勝山市のすべての教員が評価の在り方について共通理解をもって普段の授業に取り組めるようにしている。

③ 小学校教員の英語力向上

外国語活動や外国語科の授業において、教員の英語の使用率が高まることは、それだけ子供たちに英語のインプットの機会を増やすことになると言える。そのため、学級担任が単独で授業を進めるに当たり、その英語力の向上は、校内研修の課題の 1 つである。成器西小学校では、専科教員や 2 人の支援員と共に、校内研修の時間を利用して、「授業中に使える簡単な英語の指示」「子供たちへの褒め言葉」を中心に、教員が授業で英語を使う機会を増やすための研修を行っている。また、放課後にラジオ講座を全校放送するなどして、職員室にいたくとも教員が英語を耳にする機会を設け、英語力の向上に努めている。教員によっては、通勤時間等を利用してラジオ講座を継続視聴したり、洋楽や映画を活用して英語に触れたりするなど、自身の英語力向上に向けた取組を自主的に行っている。

(3) 学校掲示、ラジオ講座で英語力向上

校内研修の場で、「教員だけでなく、子供たちも、授業外で英語に触れる機会を設定し、英語を身近に感じてもらう工夫はないだろうか」という意見が出されたことをきっかけに、校内で子供たちが日常的に英語を目にしたり耳にしたりする機会を増やす取組が始まった。

手始めに、学校のいろいろな場所に英語の掲示をすることにした。教員が分担して、職員室や特別教室などの表札の下に英語の表記を加えたり、曜日や月を表す英語を階段に掲示したりした。ある教員から、「使用するフォントによっては活字体と異なるものがあり、子供たちが混乱するのではないか」という意見が出された際には、一斉に手直しするなど、試行錯誤しながら掲示を充実させていった。

続いて、「給食時間等子供たちが行う校内放送で、少しでも英語を取り入れられないか」という意見が出され、担当教員を中心に取組が始まった。最初は少し戸惑いを見せた子供たちも、徐々に英語でアナウンスすることに慣れてきており、楽しんで英語を話すようになっている。また、「校内体育大会で英語を使った種目ができないか」などという意見も取り入れられ、授業以外で英語を使う場面が次第に増えてきている。いずれも、校内研修の場で教員から出されたアイディアがひとつずつ形になっており、教員の意欲の向上にもつながっている。

- 校内研修を活性化させ、学校を変えるのは、管理職のリーダーシップによるところが大きい。各学校の管理職や教職員に対して、県や市の教育委員会がそれぞれの立場から指導、支援していくことが大切である。

県教育委員会 …… 英語教育推進の方針決定。各地域の取組の把握、その取組を県内全域で共有。地元大学等と連携し、教員養成と現職教員研修を接続。

市教育委員会 …… 各学校の管理職に対する説明・支援。小学校教員の良き相談相手。県教育委員会と各学校のパイプ役。

小 学 校 …… 管理職を中心とした、指導力と英語力の向上に取り組める全職員参加型の校内研修の推進。



小学校教員の指導力向上に向けた 外国語（英語）教育中核教員研修の充実

～英語教育推進リーダー中央研修・研修実習の事例～（川崎市総合教育センター）

川崎市においては、中央研修を受けた英語教育推進リーダー（以下、「推進リーダー」という）が研修実習として行う中核教員研修を、研修の効果を高めるため、夏季休業中等に集中して行うのではなく、一定の期間を空け、半日単位、年間6回の研修として実施している。受講者（中核教員）は各回の研修後、学んだことを授業で実践し、レポートにまとめ、次の研修で提出するため、日々の授業改善につながる研修となっている。また、推進リーダーによる研修後、受講者（中核教員）は、授業での実践と複数回の校内研修を実施し、2月にその実施報告書を提出する。提出された報告書は、市教育委員会で取りまとめて各校に配付し、相互に研修成果を共有できるようにしている。

以下に、平成27・28年度に実施した推進リーダーによる「小学校外国語（英語）教育中核教員研修」を紹介する。

1 「平成27・28年度 小学校外国語（英語）教育中核教員研修」の概要

1 研修の趣旨

各学校の外国語（英語）教育の中心となる教員（中核教員）に対し、英語教育推進リーダーによる研修等を通して、今後の外国語教育に必要な知識や技能等を習得させ、各学校において本研修を踏まえた外国語教育が実施されることを目的とする。

2 主催及び主管 川崎市総合教育センター

3 研修対象者（小学校113校・聾学校1校）

各学校で、原則として次の条件を満たす教諭1名

- ①平成20年度～26年度の外国語活動中核教員研修を修了した者（＊）
- ②平成26・27年度の外国語（英語）教育中核教員研修の受講者でない者
- ③5・6年生の外国語活動の指導経験のある者
- ④平成28年度に現在の勤務校で外国語（英語）教育中核教員として活動できる者

4 留意事項

- （1）年度を越えての研修となるため、来年度の学校運営を考慮した人選をお願いいたします。
- （2）研修の性格上、全ての研修に原則として中核教員が通して参加してください。

5 研修の内容、日程、会場

回	日 時	内 容	会 場
1	平成28年1月4日（月） 午前9:00～午後12:00	○オリエンテーション ○有識者による講演	総合教育センター 第1研修室 他
2	午後1:15～	○英語教育推進リーダーによる研修①② ・教室英語 ・単語や表現の学習	総合教育センター 第1研修室 他
3	平成28年4月22日（金） 午後2:00～	○英語教育推進リーダーによる研修③ ・歌の活用（1） ・絵本の活用（1）	総合教育センター 第1研修室 他
4	平成28年7月22日（金） （夏季休業中） 午前9:00～午後12:00	○英語教育推進リーダーによる研修④⑤⑥ ・歌の活用（2） ・絵本の活用（2） ・アルファベットの音・指導案検討に必要な英語	総合教育センター 第1研修室 他
5	午後1:15～	○外部専門機関による英語演習	
6	平成28年7月27日（水） 午後1:30～	○英語教育推進リーダーによる研修⑦ ・ALTとの授業 ・他教科と関連した活動 ○研修のまとめ	△△小学校

※研修内容については変更する場合がある。 ※上記以外に、英語教育推進リーダーによる公開授業研究会等を予定している。

※受講者は、第6回研修終了後に各校にて校内研修を企画、実施し、報告書を作成、提出する。

〈図表1〉各校への通知

＊本市では平成20・21年度に国が必修とした研修を26年度まで独自に継続。
26年度からは推進リーダーを活用した現在の研修に切り替えている。

第1・2回研修では、有識者による小学校外国語教育に関わる最新情報についての講演を取り入れるようにしている。また、第4・5回研修では、英語力向上を目的とし、外部専門機関による教室英語のトレーニングを中心とした演習を取り入れている。

第3回と第4回の研修時には授業実践レポート〈図表2〉を提出することになっている。受講者は、第2・3回の研修内容を踏まえて、所属校において授業で実践しながら研修を進め、レポートを提出する。講師を務める推進リーダーも、そのレポートを確認することにより自分が行った研修内容がどのように授業に反映されているのか知るとともに、次の研修に生かすことができる。

第6回研修では、平成26・27年度の研修受講者が作成した報告書〈図表3〉を取りまとめた冊子を配付し、校内研修を実施する際の参考資料となるようにした。

受講者に対して、所属校において校内研修を複数回実施することを求め、第6回研修時に市教育委員会より研修の進め方を説明した。報告書については、受講者の負担にならないよう、かつ、実施した研修内容が分かるよう、簡潔にA4用紙1枚程度で作成することを求めている。

平成27・28年度 第2回 小学校外国語（英語）教育中核教員研修
授業実践・校内研修実施レポートについて

以下の作成例を参照の上、報告書を作成し、第3回研修時に4部、提出してください。

＜作成例＞ フォントなど書式は自由です。項目は生かしてください。

平成27・28年度 外国語（英語）教育 授業実践・校内研修レポート 川崎市立 学校	報告者 氏 名
---	------------

1 平成〇年〇月〇日（〇） 授業実践 〇年〇組
（1）実践内容
○
○
○

（2）成果と課題
○
○

2 平成〇年〇月〇日（〇） 授業実践 〇年〇組
（同 上）

3 平成〇年〇月〇日（〇） 校内研修「～について」
（1）研修内容
○
○
○

（2）成果と課題
○
○

＜備 考＞
1 今回の研修内容「教室英語」「単語や表現の学習」についての授業実践とします。
また、研修内容を共有した他の先生の授業についての内容も可とします。
2 1つの事例でも構いません。A4用紙1枚程度にまとめてください。
3 校内研修については、今回、必ず実施する必要はありません。実施した場合のみ報告してください。

簡潔書きで構いません。
今回の研修を受けて、実際にどのような授業や研修を行ったのかわかるように書きください。

〈図表2〉授業実践・校内研修レポート

平成26・27年度 小学校外国語（英語）教員中核教員研修 校内研修実施報告書
学校番号〇〇 川崎市立〇〇小学校 〇〇 〇〇

【研修事例1】
（1）日時 平成27年9月11日（金）13時30～14時15分
（2）内容
① 3年1組「アルファベットであそぼう」
（目標）
・ゲームを通してアルファベットの形や言い方に慣れ親しむ
・英語の言葉がアルファベットでできていることを知り、組み合わせてみようとする
（主な活動）
・ABC Song を歌う
・アルファベットカルタをする
（3）研究協議の内容
・日本語の少ない授業だった。
・クラスルームイングリッシュが多く使われていた。
・ALTの英語をよく聞いて真似ようとする姿がみられた。
・カルタの活動ではアルファベットを並べて、単語を作らなくてもよいのではないかと。
（4）研修の様子および感想
本校では研究を始めて3年となり、クラスルームイングリッシュが児童にも指導者にも定着してきていると感じる。指導者が児童に指示を出す場面では英語を用いるが、児童をほめる英語が少ないようだった。活動の内容も考えていく必要があるが、子どもとの関わり方も探っていく必要があると感じた。

【研修事例2】
（1）日時 平成27年8月25日（火）16時10～
（2）内容
① DVD教材の視聴
② アクティビティの紹介
・カルタ、伝言ゲーム、ミッシングゲームの紹介
・ゲームのルール説明で使う英語表現の紹介
・ALTとHRT役を決めて単語の導入→ルール説明→ゲームをする
（3）研究協議の内容
・実際に説明してみると、意外と簡単な英語表現だけでできることがわかった。
・英語だけではなくジェスチャーをつけて行うことが大切だった。
・説明の時にはやって見せるのが効果的だということがわかった。
（4）研修の様子および感想
ルール説明の使う英語表現から練習した。短く、簡単な英語表現を扱うことで指導者にとっても、児童にとってもわかりやすくなるようだった。指導法を聞くだけでなく、やってみることで実りある研修となった。

平成26・27年度 小学校外国語（英語）教員中核教員研修 校内研修実施報告書
学校番号△△ 川崎市立△△小学校 △△ △△

1 平成27年7月23日（火）校内研修「評価について」
（1）研修内容
○外国語活動の評価と趣旨、3つの観点について
○評価規準の設定と指導の評価の計画例
○振り返りカードの例
（2）成果と課題
○先生方の中には、外国語活動の評価をしたことがない（必修になってから、高学年を担当したことがない）方もいるので、まず基本的なことから確認した。
○授業の具体的な場面を取り上げることで、イメージしながら考えてもらった。
○それでも、まだまだ授業が「この目標だからこの活動」という流れにはなっていないので、誰でもできるような指導案や教材の用意が必要。

2 平成27年8月25日（火）校内研修「教室英語について」
（1）研修内容
○外国語活動の目標 3つの柱について
○担任の役割
○教室英語の例
○文科省のDVD視聴
（2）成果と課題
○目標を受けて、担任が担うべき役割を確認した。
○教室英語の例を挙げることで、今まで英語を使うことに抵抗を感じていた先生も「意外と使っている」と思ったようだ。DVDは、具体的な場面が取り上げられていて、どんなところで教室英語を使えばよいかのイメージができたようだ。

3 平成28年1月7日（木）校内研修「模擬授業」
（1）研修内容
○Hi, friends! 2 Lesson2の誕生日をテーマにした活動を取り上げ、単語の導入から慣れ親しむゲームをした。
○英語でやり取りを自分の誕生日のカレンダーをもらってきて、イラストを加え、グループの中で紹介し合った。
（2）成果と課題
○教室英語も使いながら、実際の授業を体験してもらえた。「これなら楽しい！」と感想をもらえた。
○やはり、「外国語の授業を見たことがない」という先生方が多いので、少しずつでもこのように紹介していくと、広がっていくと思う。

〈図表3〉校内研修実施報告書

2 研修実施に当たっての教育委員会としての支援

(1) 非常勤講師の配置

推進リーダー（各年度2名ずつ）は、自らで授業実践を進めることで、講師として自信をもって指導に当たることができるが、所属校での通常の勤務を行いながら、並行して複数回の研修の講師を務めることになる（図表4）。こうした推進リーダーの負担を少しでも軽減できるように、研修を多く行う年度に週9時間の非常勤講師を、年間を通じて配置した。推進リーダーがいる学校の負担軽減にもつながっている。

	H27・28研修				H28・29研修
	第1・2回(1月)	第3回(4月)	第4・5回(7月)	第6回(7月)	第1・2回(1月)
H26リーダー	講師	市内各校の校内授業研究会・指導案検討会などの講師			
非常勤講師	○	×	×	×	×
H27リーダー	講師	講師	講師	講師・公開授業	講師
非常勤講師	×	○	○	○	○
H28リーダー	選考	中央研修			
非常勤講師	×	×	×	×	×

〈図表4〉英語教育推進リーダー研修実習講師と非常勤講師の配置

(2) 事前打ち合わせ

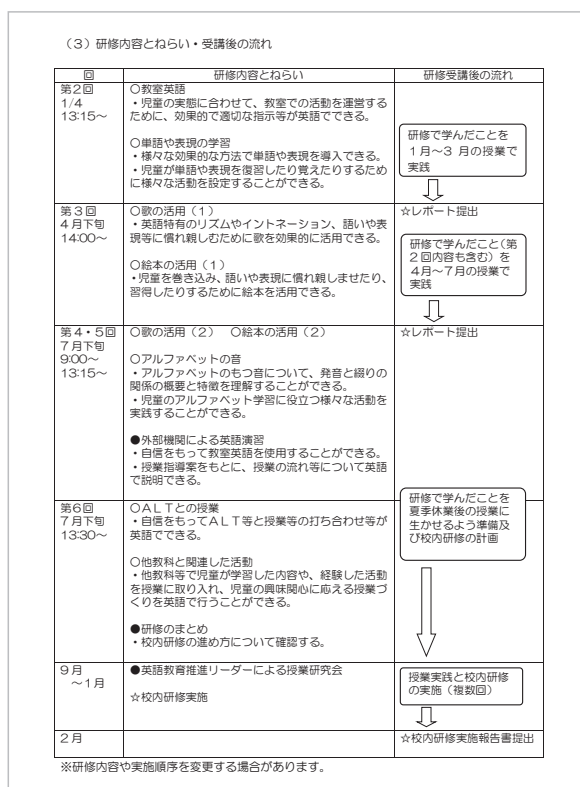
各研修の2週間前までに推進リーダー会議を実施し、用意する資料の確認、研修の流れについて、当日使用する会場にて打ち合わせを行うようにしている。配付資料や会場準備については教育委員会がすべて行い、推進リーダーは講師としての役割に専念できるよう配慮している。第1・2回研修については、前年度の推進リーダーも参加するため、引き継ぎを兼ねた打ち合わせができ、委員会としても前年度の推進リーダーの支援を得ることができている。

(3) 教育委員会としての研修への関わり

第1回研修時にはオリエンテーションを行い、受講者に対して研修の意義や進め方を周知し、推進リーダーが十分に力を発揮できるようにしている。また、受講者が1年間、見通しをもって研修に臨めるよう、ねらいや受講後の流れを説明・提示している（図表5）。

第6回研修後の9月～2月にかけて、推進リーダーによる示範授業を行い、研修内容を反映した授業を受講者が参観し、協議する機会を設定している。受講者からは、「教室英語の使い方や子供たちへの関わり方がよく見えて大変参考になった」といった感想が多く寄せられている。

研修効果を高めるためには、実際の授業を観ることは重要であり、今後も継続させていきたい。



〈図表5〉オリエンテーション配布資料(抜粋)

3 推進リーダー及び中核教員の研修後の感想

(1) 推進リーダーの感想

- 昨年度の推進リーダーや指導主事からのバックアップは、安心してスムーズな研修を実施する上で大きなサポートになった。複数回の研修により、受講者から、校内の研修で絵本の読み聞かせや歌の指導を楽しみながら行い、それを日々の実践で生かしているという話を聞く機会があり、よい英語の授業をつくっていこうとする高い意欲が広がっていると感じた。
- 小学校の英語指導に必要な基本テーマを網羅した研修内容であったので、参加者にとって総合的に英語指導の技術を高める場になった。多くの方が前向きに参加してくれたが、研修の時期、時間、人数等、より負担感なく研修を行えるようにすることが課題である。
- 中央研修で学んだ内容を伝えることも大切だが、自分の授業での体験談を入れることで、さらに受講者の役立つものになったと思う。受講者の中には英語に自信がないという方も多くいたが、すぐに日本語に頼るのではなく、ジェスチャーを入れたり、何度も繰り返したりして何とか理解してもらうことができた。今回の英語による研修を通して、授業で子供たちが味わう感覚を体感できたのではないかなと思う。



(2) 中核教員の感想

- 各テーマが明確で実践的であり、授業ですぐに使えるもので、研修を受けながら「これならできるかな」という気持ちになった。
- 各回の研修後に授業実践を行う課題があり、負担ではあったが、学んだことを実際に試す良い機会となった。
- 私たちと同じ担任をしている先生方が講師であったので、具体的な授業場面を思い浮かべて共感したり、共感してもらったりしながら、講師を身近に感じて研修に参加することができた。
- 実践を伴った6回の研修を通して、自身の成長を感じることができ、英語に対してのハードルが低くなった。中核教員としての緊張感も高まり、とてもためになった。

- 平成26年度に始まった英語教育推進リーダーを活用した研修は、同僚が講師を務めることで、現場の悩みも共有しつつ、授業改善を目指そうとする協働的な学びの場になっている。また、校内研修の進め方について時間を確保したことが、小学校の中核教員による校内研修の実施につながっている。本市では、小学校だけでなく、中学校と高等学校でも授業実践を取り入れながら、複数回の研修を行っている。こうした授業実践を促す研修をきっかけにして、今一度自分の授業を見直そうとする先生方が増えていることは大きな成果であると考えられる。
- 今後の課題として、新学習指導要領における外国語教育拡充に対して、どのように専門性を高める研修を組んでいくかを検討する必要がある。本市では平成31年度までに10名の推進リーダーが養成される予定だが、その推進リーダーを有効に活用していきたい。



巡回教員や専科教員(コーディネーター)、 兼務教員等を活用して、小学校教員の指導力向上を図る ～宮若市、宗像市、糸島市における事例～

(福岡県教育委員会)

本県では、英語教育推進リーダーを研修講師として、中核教員を育成する「小学校教員の英語力・指導力向上研修」を実施し、参加した中核教員には、この研修の一環として、在籍校における校内研修の実施を義務付けている。

特に、中核教員が実施する校内研修のうち、必ず1回以上を、研究授業として位置付けることにしており、「小学校教員の英語力・指導力向上研修」で学んだことを授業場面で生かすことを通して、中核教員のより実践的な授業力を高めるとともに、校内の外国語活動の授業経験が少ない教員にも、授業の具体的なイメージをもたせることができると考えている。

このように、本県では、主に中核教員を活用して、小学校教員の指導力向上に向けた取組を実施している。このことに加えて、独自の方法で小学校教員の指導力向上を図っている市町村教育委員会も増えてきている。

以下、小学校教員の英語力・指導力向上に向けた市町村教育委員会の取組例を紹介する。

1 専科教員及び英語教育推進リーダーを活用した取組(福岡県宮若市教育委員会)

〈図表1〉

(1) 小学校教員の授業力向上を図る専科教員の巡回指導

宮若市地域は、文部科学省による「英語教育強化地域拠点事業」の拠点地域である。若宮小学校では、国の事業に伴う専科教員の配置を利用して、低学年・中学年における活動型、高学年における教科型の英語教育の在り方についての研究を行っている。

専科教員は、自校内のみならず、同一中学校区内の他の小学校も訪問し、学級担任の指導の実態に応じて、授業を通して段階的に指導・助言を行っている。

- ① T1 としての指導の在り方や ALT との関わり方について示範授業による提示
- ② T2 として授業に関わり、授業後に T1 の改善点について指導・助言
- ③ 学級担任の授業を参観し、授業後に改善点について指導・助言

上記の3つの段階を通して、最終的には専科教員に頼ることなく、学級担任一人で外国語活動及び外国語の指導ができるようにする、指導力向上の仕組みである。

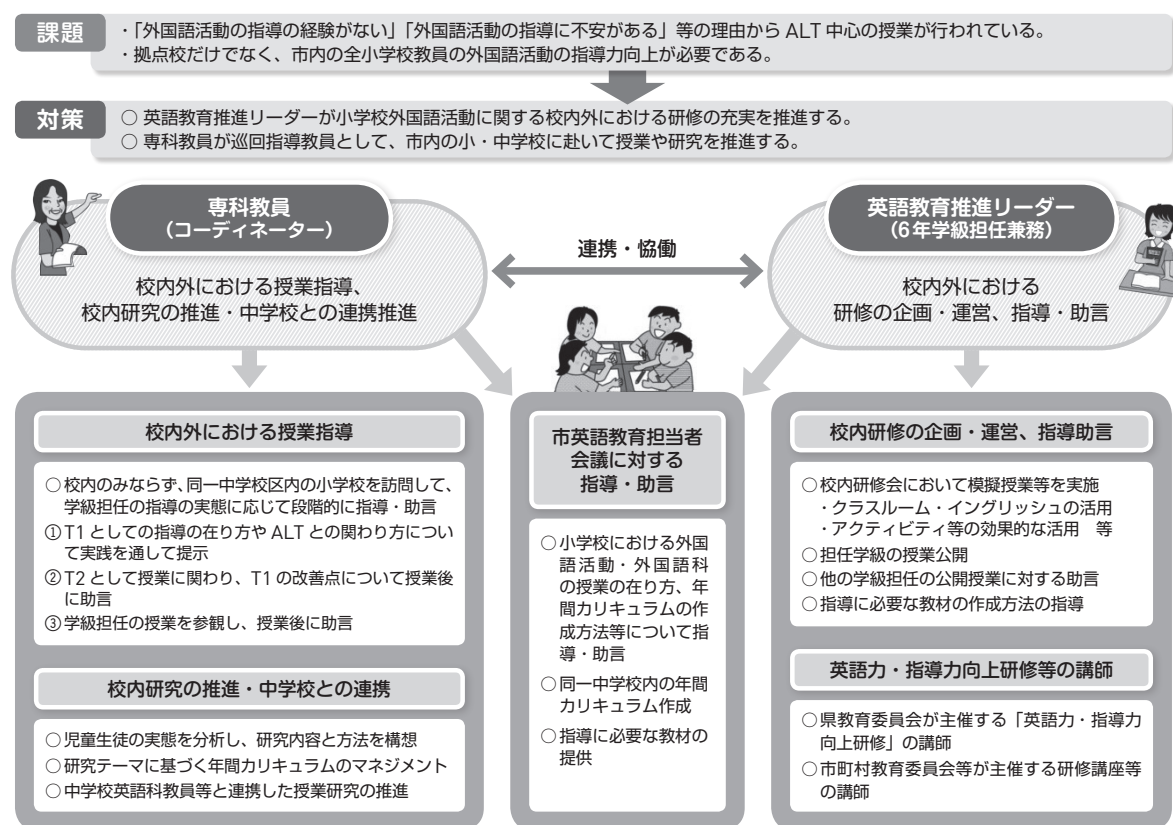
また、校内研修においては、高学年の学級を担任している推進リーダーが、自ら外国語科の授業を公開したり、クラスルーム・イングリッシュの活用、アクティビティの効果的な活用等の模擬授業を行ったりして、他の教員への指導をしている。

このように、専科教員と推進リーダーがその役割を分担して協働し、教員の英語力・指導力の向上に努めている。

(2) 専科教員と推進リーダーが協働して推進する宮若市の英語教育

専科教員と推進リーダーは、「英語教育強化地域拠点事業」の指定地域以外の小学校を含む「宮若市英語教育担当者会議」において中心的な役割を担い、市内の小学校教員と中学校英語科教員の指導力

〈図表 1〉専科教員及び英語教育推進リーダーを活用した取組（福岡県宮若市）



向上に努めている。

具体的には、外国語活動・外国語科の授業の在り方、年間カリキュラムの作成方法等について指導・助言したり、指導に必要な教材の提供を行うことにより、英語教育担当者が、所属している各学校において、他の教員を指導できるようにしている。

2 小中学校兼務教員の巡回指導を活用した取組（福岡県宗像市教育委員会）〈図表 2〉

(1) 小学校教員の授業力向上を図る小中学校兼務教員の巡回指導

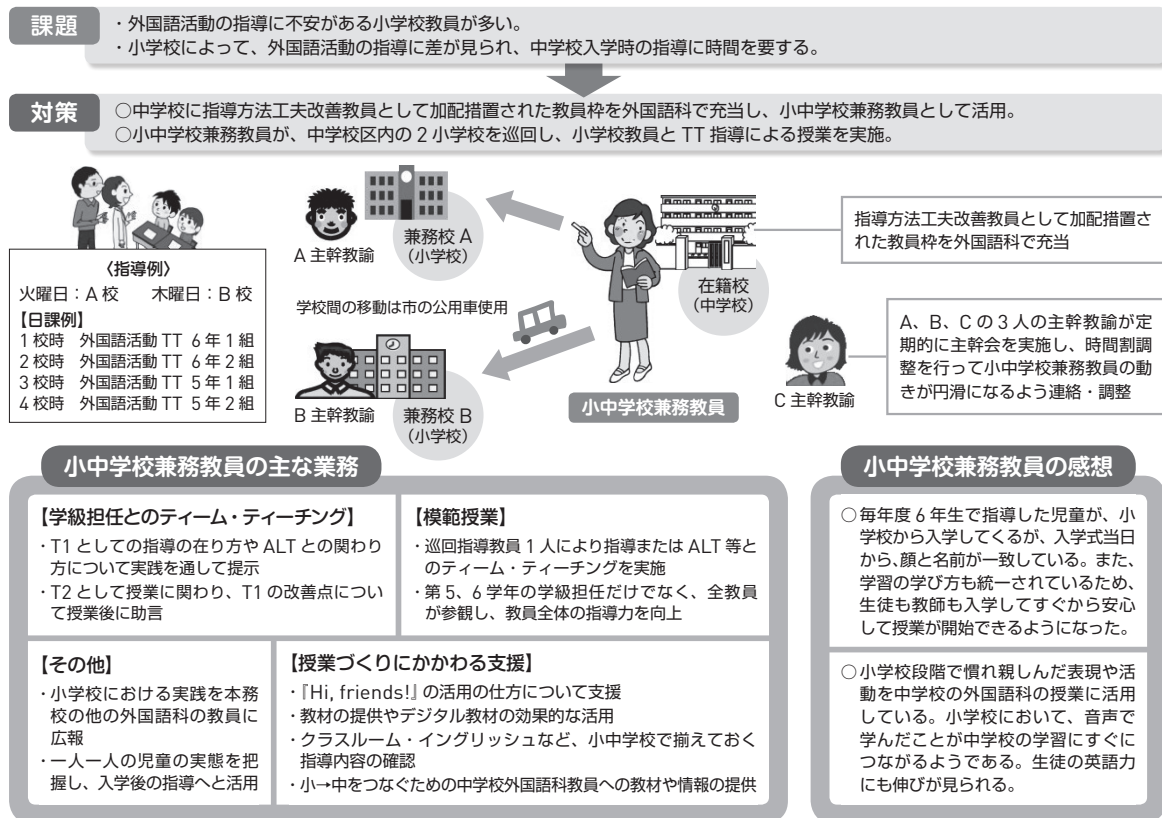
宗像市教育委員会では、小中一貫教育を推進している。なかでも、特徴的な取組として、「指導方法工夫改善教員」として加配措置された中学校教員を外国語科で充当し、小中学校の兼務教員として活用している。

兼務教員は、中学校の外国語科の指導をする一方で、中学校区内の小学校にも出向き、学級担任とともにチーム・ティーチングで高学年の外国語活動の指導をしている。小学校でのチーム・ティーチングに当たっては、兼務教員が T1 として授業を進め、学級担任に指導の方法を示して身に付けさせたり、T2 となって T1 の学級担任を支援し、授業後に改善点について助言したりするなどしている。この際、学級担任の指導力の状況によってチーム・ティーチングの役割を選択しており、毎回のチーム・ティーチングが、小学校教員の指導力を高める実践的な校内研修の機会となっている。

(2) 授業以外における小中学校兼務教員の指導

授業以外の場面においては、小学校の全職員が参加する校内研修において、兼務教員一人または、ALT 等とのチーム・ティーチングによる授業を公開し、クラスルーム・イングリッシュの指導等も行っている。

〈図表 2〉小中学校兼務教員の巡回指導を活用した取組（福岡県宗像市）



さらに、『Hi, friends!』等の教材の効果的な活用方法やその他の教材についての情報提供等、授業づくりにかかわる支援も行っている。

(3) 小中学校兼務教員の巡回指導を支える体制

兼務教員は、在籍中学校でも外国語科の指導を行っているため、小学校での指導を行うためには、小学校と中学校の時間割の調整等が必要となる。そこで、該当の中学校区の小中学校の主幹教諭が定期的に「主幹会」を開き、兼務教員が円滑に業務遂行できるよう、時間割等の連絡・調整を行っている。

また、宗像市教育委員会は、兼務教員が小・中学校間を円滑に移動できるよう、市の公用車を移動手段として提供し、巡回指導を支援している。

3 英語教育コーディネーターを活用した取組（福岡県糸島市教育委員会） 〈図表 3〉

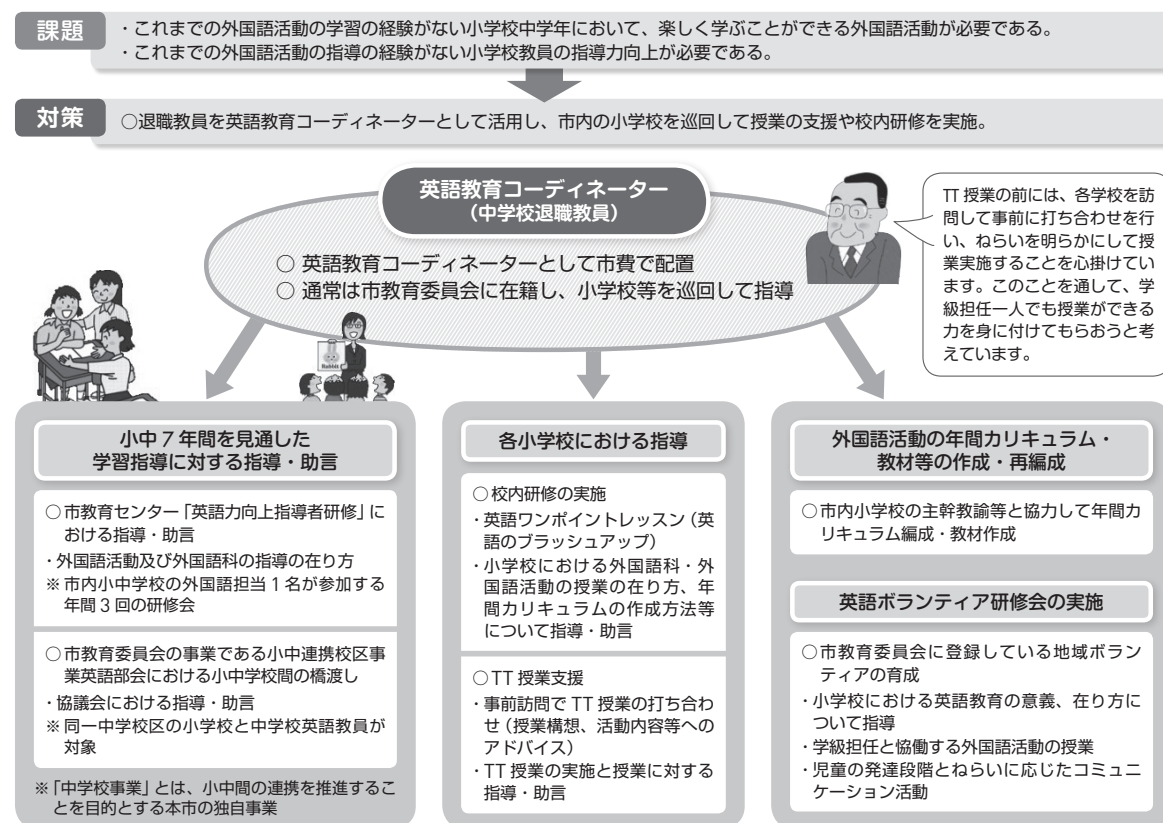
(1) 小学校教員の授業力向上を図る英語教育コーディネーターの巡回指導

糸島市教育委員会は、平成 28 年度から教育課程特例申請を行い、市内の全小学校の中学年から外国語活動の授業を開始した。これを契機に、市内の小学校を計画的に巡回して小学校教員を指導する英語教育コーディネーター（中学校の退職教員）を市教育委員会に配置した。

英語教育コーディネーターは、新規に行うこととなった中学年の授業の一部で学級担任とともにチーム・ティーチングを行い、PDCA サイクルによる授業改善に取り組んでいる。以下がその具体的な内容であるが、チーム・ティーチングによる授業の実施が、教員の実態に応じた研修の機会となっている。

① チーム・ティーチングによる授業の前に訪問し、児童の実態や学級担任の課題を把握するとと

〈図表 3〉英語教育コーディネーターを活用した取組（福岡県糸島市）



- もに、単元のねらいや授業で行う活動の目的、指導のポイント等について学級担任に指導する
- ② 学級担任の役割分担を明確にしたチーム・ティーチングを実施する
 - ③ 授業後に簡単な授業の振り返りを行い、当日の授業についての具体的なアドバイスをを行うとともに、次の単元についての指導を行う

(2) 校内研修における英語教育コーディネーターの指導

英語教育コーディネーターは、巡回する小学校において、全職員を対象とする校内研修を実施している。小学校教員の英語力向上を目的とする「英語ワンポイントレッスン」では、小学校教員の英語に対する不安を取り除くために、授業で利用できる簡単な英語に楽しく触れさせている。また、小学校における外国語活動の授業の在り方、年間カリキュラムの作成方法等についても指導助言を行っている。なお、各小学校には、クラスルーム・イングリッシュを収録したCDを配布している。

- ・いずれの研修でも、まずは授業イメージをつかませた上で、教員の実態に合わせて、専科教員等と一緒に授業をしたり、学級担任一人の授業に指導・助言をしたりするなど、無理なく指導力を身に付けていくための段階を踏まえながら指導を行っている。
- ・こうした校内研修の在り方は、時間は要するものの、小学校教員に過度の負担を強いることなく、外国語の指導力を向上させる有効な取組であると考えている。



校内研修サポート教材の開発・提供による校内研修の充実を通して小学校教員の英語力・指導力向上を図る ～自分たちで進める校内研修の事例～

(福岡県教育センター)

福岡県教育センターでは、小学校における外国語教育の早期化や教科化に向け、先生方が主体的に校内研修を進められるよう、研修ツール「校内研修プラン」を作成した。

以下に、「校内研修プラン」とその活用事例を紹介する。

1 校内研修サポート教材「校内研修プラン」

(1) 9つの〈セレクトプラン〉と2つの〈パッケージプラン〉

「校内研修プラン」は、A～Dの概論編、E～Iの実践編の合計9つの〈セレクトプラン〉で構成されている。また、〈セレクトプラン〉の中から基本的な内容を抜粋し再編集した、2つの〈パッケージプラン〉も用意している。

〈セレクトプラン〉

概論編

A 改訂の背景と今後の見通し			
1 改訂の背景と今後の見通し			
2 英語教育改革へ向けた自校の課題			
3 次期学習指導要領全面実施に向けた研修計画			
B 教科化			
1 これからの小学校の英語教育について		4 中学校や高等学校の英語教育の目標	
2 小学校の外国語の目標		5 学習評価について	
3 新たな学習内容		6 専科教員と学級担任の位置付け	
C 教材の内容構成			
C-1 『Hi, friends! 1、2』		C-2 『Hi, friends! Plus』	
1 『Hi, friends! 1、2』の教材について		1 補助教材『Hi, friends! Plus』について	
2 活動を実際に体験		2 補助教材『Hi, friends! Plus』の留意点について	
3 『Hi, friends! 1、2』を使った単元の具体的な流れ		3 補助教材『Hi, friends! Plus』の3つのポイントについて	
D 言語習得の過程			
1 大人の学びと子供の学びの違い 大人の学び（単語の意味や文法等を基に論理的に思考をして、英語を理解） 子供の学び（英語でのやり取りで、音声表現を繰り返し聞いて英語の意味や使い方を体験的に理解） 学びの違いにおける言語習得の研究成果			
2 言語習得の過程			
3 第二言語習得の過程			
4 第二言語習得の過程に基づいた外国語活動の工夫			
5 外国語活動の指導の工夫について			

実践編

E 中学年の外国語活動の指導			
E-1 中学年の外国語活動の指導			
1	英語絵本を選ぶ際の留意点について	3	絵本の読み聞かせの演習
2	英語絵本の活用の仕方について	4	日本語絵本を英語表現にする演習
E-2 中学年の外国語活動の指導『Hi, friends! Story Books』			
1	『Hi, friends! Story Books』について	3	絵本を使った活動（ポインティング・ゲーム、カルタ取り、ミッシング・ゲーム）
2	2つの絵本の読み聞かせ、チャンツ		
F 高学年の外国語の指導			
F-1 楽しく文字を扱った指導			
1	文字を扱った教材 (1)『Hi, friends! 1』 (Lesson 6：アルファベットの大文字) (2)『Hi, friends! 2』 (Lesson 1：アルファベットの小文字)	2	文字を扱った教材の使用法
		3	文字を扱った指導の留意点
		4	『Hi, friends! Plus』を使った文字を扱った演習
F-2 楽しいアルファベットの音の指導			
1	アルファベットの読み方とアルファベットの音の違い	2	アルファベットの音の指導の教材の使用法
		3	アルファベットの音の指導に係る留意点
G 英語力アップ			
G-1 楽しく！ 英語で歌おう！		G-4 簡単！ 英語でコミュニケーション	
G-2 簡単！ 教室英語		G-5 簡単！ スモール・トーク	
G-3 簡単！ 英語でスピーチ			
H 評価			
1	外国語活動の評価の基本的な在り方について		
2	具体的な評価の仕方 (1) 3つの評価の観点とその趣旨と留意点 (2) 指導と評価の計画の立て方について (3) 振り返りカードの活用		
3	CAN-DO 形式の評価について		
I 中学校との連携			
I-1 小学校のみで行う		I-3 小中合同（授業参観あり）	
I-2 小中合同（授業参観なし）			

〈パッケージプラン〉

① (セレクトプラン A、B、G から抜粋)	
1	改訂の背景と今後の見通しについて (セレクトプラン A)
2	小学校における中学年の外国語活動導入と高学年の教科化について (セレクトプラン B)
3	英語力アップ演習 (セレクトプラン G-1)
② (セレクトプラン C、F から抜粋)	
1	『Hi, friends! 1、2』の教材について (セレクトプラン C-1)
2	高学年の外国語の指導について (セレクトプラン F)
3	補助教材『Hi, friends! Plus』について (セレクトプラン C-2)

(2)「校内研修プラン」3つの特徴

① 研修経験がなくても、準備時間がなくても安心

各プランには、プロット、研修の進め方を示した展開例、スライド資料（読み原稿付）が付いているため、校内での研修に慣れていない先生でもすぐに研修担当者として研修を行うことができる。また、研修の準備や内容を調べてまとめる時間がないという先生方も準備時間を短縮することができる。

② 各校の実態に合わせてアレンジ可能

各学校の実態や課題に応じて、セレクトプランを組み合わせ活用することができるようにしている。自校の課題を把握することができるようにチェックシートも付いているので、自校にとって必要な研修内容に応じてプランを選んだり、優先順位を考えて研修会を計画したりすることが可能である。研修に必要なおおまかな時間も示されているので、計画を立てやすくなっている。また、学校の様々な状況に対応するため、どのプランも自由にアレンジできるようになっている。スライド資料を削除・追加したり、スライド資料に書き込んだりもできる。

③ ALT がいなくても安心

自校の教員を対象とした英語力向上の研修をしたいと思っても、学校に ALT がいない場合や研修担当者が英語の発音が苦手な場合もある。その場合でも、安心して研修を行うことができるように、ALT がジェスチャーを交えて英語の発音を言ったり、英語の歌を歌ったりしている動画資料が付いている。必要に応じて演習の際に活用できるワークシートや楽譜も付いている。チャンツのリズムだけを再生できるスライド資料も付いているので、先生方と楽しみながら英語力アップを目指すことができる。

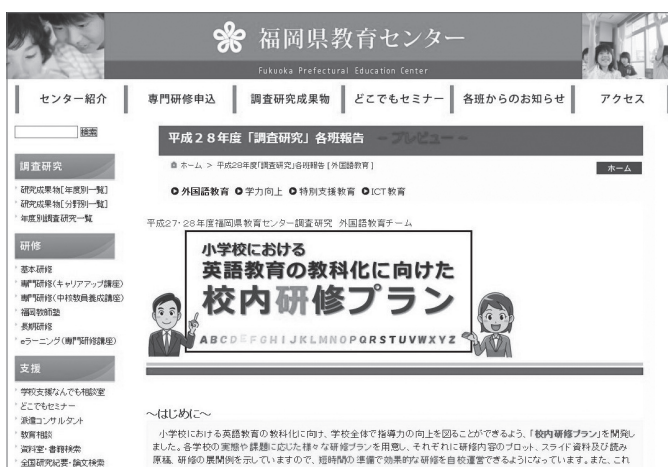
(3) 校内研修プランを効果的に活用するために

研修のポイントなどをまとめた『スタートアップガイド』〈図表 1〉や、研修を実際に進めている様子を観ることができる研修動画も準備した。研修担当の先生方の負担をできるだけ少なくし、英語教育の目標を実現するために全職員で共通理解を図りながら各校の課題の解決に向けて組織的、計画的、継続的に校内研修を運営できるようにと考えて作成している。

なお、各プランの資料および『スタートアップガイド』は、福岡県教育センターのホームページ〈図表 2〉（<http://www.educ.pref.fukuoka.jp>）から、誰でもダウンロードが可能である。



〈図表 1〉『スタートアップガイド』



〈図表 2〉福岡県教育センターホームページ「校内研修プラン」

2 活用事例

(1) 小学校教員の英語力・指導力向上研修を受けた中核教員が活用

福岡県では、文部科学省の中央研修を受講した英語教育推進リーダーが行う小学校教員の英語力・指導力向上研修で、受講した中核教員が「①授業公開をもとに協議し、よりよい授業の在り方についての理解を深める校内研修」と「②外国語活動に関する目標や内容等について理解したり指導方法について演習を通して身に付けたりする校内研修」を行うよう位置付けている。そこで、②の研修で「セレクトプラン E、F、G」をアレンジして活用した。



研修担当者

プランを選んで、校内の実態に合わせてスライドを編集することができたので使いやすかった。

授業での絵本の取り扱い方や『Hi, friends! Plus』の使い方など、すぐに実践できることが紹介されたのでよかった。



受講者

(2) 校内研修担当者が活用

教科化に向けて準備を進めたいと考えていた校内研修担当者が「パッケージプラン①、②」をアレンジして活用した。英語教育に対して苦手意識が強い教員が多い学校の実態に応じて、楽しめるゲームを入れ、研修担当者自身も楽しみながらできるように工夫した。



研修担当者

自分で時間をかけて調べなくても、十分な情報がプレゼンの形で用意されているので、使いやすかった。

教科となる背景が分かった。最後のゲームなどは、具体的な活動することで授業のイメージがわいた。



受講者

(3) 市区町村の外国語活動担当者研修会で推進委員の先生が活用

各校の外国語活動担当者が集まる研修会で、推進委員の5名の先生方がどのような内容にするか一緒に話し合い、「セレクトプラン A、B、E、F、G」を組み合わせることにした。盛りだくさんではあるが、それぞれが役割を分担して半日の研修を行った。



研修担当者

全員参加型で演習した方がより実感が伴うと思った。研修プランは、流れもスムーズでパワーポイントもすべて準備してあるので、進行しやすかった。

実際にやってみたことで、どのように授業に組み込んでいけばよいかわ具体的にイメージできた。



受講者

平成27年度に研修プランを作成し、活用していただいた中で、「どのように研修をしたらよいか分からない」という先生方の声にお応えして、平成28年度は、研修の様子を観ることができる動画資料やプランの活用方法を記した『スタートアップガイド』を作成した。また、ALTによる歌や発音の動画資料や絵本の読み聞かせ方法の動画資料、チャンツのリズムが再生できるリズムマシンも作成し研修プランに加えている。今後も、小学校での外国語教育の早期化・教科化に向けて、小学校での校内研修が推進されるよう、教育センターとして支援を充実させていきたい。



小学校教員の指導力向上を目指した

小小連携・小中連携の取組 ～小小連携・小中連携の事例～

(京都市立大藪小学校・京都市立久世西小学校・京都市立久世中学校)

久世3校(大藪小学校、久世西小学校、久世中学校)では、中学校入学時における中1ギャップの解消や、児童生徒のアンケート調査等で明らかになった様々な課題を克服するため、小中を9年間の枠でとらえ、小小連携、小中連携を推進している。以下に、その取組について紹介する。

1 久世3校におけるこれまでの取組 ～「久世は1つ」を合言葉に～

久世3校では、以下のような小小連携・小中連携の取組を通して、様々な側面から児童生徒の実態を把握し、日々の指導や授業づくりに生かしている。

〈児童生徒の取組の一部〉

- ・ピア・サポート活動(児童生徒の自己有用感、自己肯定感の向上を目指した異学年との交流活動を行う)
- ・宿泊行事(両小学校の4年生と5年生が合同で行う)
- ・中学校部活動体験(両小学校の児童が同じ日に中学校へ行き、部活動体験を行う)
- ・中学校合唱コンクールへの参加(両小学校の6年生が参加する)
- ・小中合同あいさつ運動(中学校生徒会と小学校児童会で、合同あいさつ運動を行う)

〈教職員の取組の一部〉

- ・久世3校年度当初及び夏季合同研修会(久世の児童の実態や課題の共有)
- ・久世スタンダード(目指す児童生徒像、保護者像、学校像)の制定
- ・教職員交流(小学校から中学校へ、中学校から小学校へ1日交流)
- ・3校合同教科会(全国学力学習状況調査や本市独自に実施している学力調査の結果を踏まえての国語・算数・理科・社会の主任会)

こうした取組により、中学校入学時の中1ギャップをはじめ様々な課題が解消されつつある。一方で、相手を意識したコミュニケーション力には課題が見られる。そこで、平成26年度から京都市英語教育推進研究拠点校事業の指定を受けて、外国語活動・英語科の研究をスタートさせた。

2 久世の児童生徒に寄り添った外国語活動・英語科の研究

(1) 研究主題

久世3校の児童生徒についてのアンケート調査等によると、相手意識をもってコミュニケーションを図ったり、互いのことを尊重しながら話し合ったりすることへの意識に課題があることが分かった。なかには、「自分の発する言葉が、相手にどのように伝わるのか」ということをあまり意識せずに言葉を発しようとする姿が見られる。そこで、外国語活動・英語科を通して言語でコミュニケーションを図ることや人と関わることの楽しさ、大切さに気付かせていきたいと考え、研究主題を「相手意識をもったコミュニケーション能力の育成」と設定した。さらに、研究主題に迫るために、毎年、重点テーマを決めて取り組んでいるところである(図表1)。

平成 27 年度	「相手意識をもったコミュニケーション能力の育成 ～子どもの意欲を引き出すための単元の構成を考える～」
平成 28 年度	「相手意識をもったコミュニケーション能力の育成 ～伝え合う喜びを感じられる児童生徒を目指して～」

〈図表 1〉平成 27 年度・28 年度の研究主題

(2) 研究主題に迫るための 3 校共通理解事項

先に示した研究主題に迫るため、3 校共通で以下の 5 点について取組を行っている。

○「言いたい」「聞きたい」「伝え合いたい」という気持ちを高めるコミュニケーション活動を設定

- ・必然性のあるコミュニケーション活動の設定
- ・「他教科等と連動したカリキュラム」や「京都ならではのカリキュラム」の工夫

○外国語に慣れ親しむための工夫

- ・45 分授業と関連させた短時間学習の工夫（中・高学年）
- ・単元最後のコミュニケーション活動につながるオリジナルチャンツづくり
- ・絵カードや掲示物を作る際、表現・語彙は四線上に手書きで示す

○やり取りを増やす工夫

- ・既習語彙・表現を活用するカリキュラム
- ・Active listening（相手が言ったことに反応して一言返す）
- ・自分の思いや考えを表現するやり取り

○相手意識をもつ工夫

- ・コミュニケーションを図る時のコミュニケーションポイントの徹底
（Smile, Gesture, Eye contact, Clear voice, Reaction, Active listening）

○振り返りカードの工夫

- ・本時の活動を通して「語彙や表現に慣れ親しんだかどうか」「活動に対する手応え」という視点で振り返りをする
- ・高学年においては目標に沿った振り返りを自由記述で行うことに加えて、「聞くこと」「話すこと〔発表〕〔やり取り〕」について、「英語を用いて何がどのくらいできるようになったか」を児童が自覚できるように、振り返りカードに評価規準を取り入れる

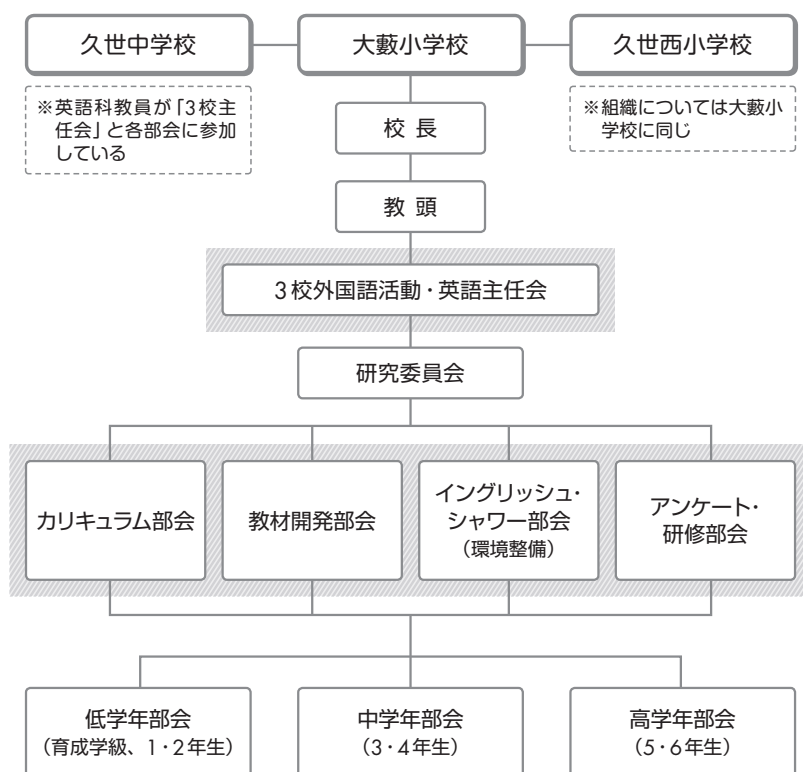
3 小小連携

同じ久世の児童でも 2 つ小学校の実態には違いがある。「同じ中学校に進学する児童らを、二校共通の取組の中で育てること」を大切に、両小学校において共通した取組や研修を行っている。

(1) 4 部会の実施

平成 28 年度より両小学校では、「カリキュラム部会」「教材開発部会」「イングリッシュ・シャワー部会」「アンケート・研修部会」の 4 つの部会を立ち上げ、両小学校すべての教職員と中学校英語科教員が、いずれかの部会に所属するようにした〈図表 2〉。また、毎月部会ごとに集まり、実践したことの成果や課題、今後の取組などについて意見交換している。話し合った内容は、3 校外国語活動・英語主任会で

共有し、今後の取組につなげている。このように全教職員の共通理解を図りながら取り組むことで、教員一人一人の意識の向上にもつながり、学校が一体となって取り組むことができている。



〈図表 2〉研究組織図

(2) 校内授業研修会の実施

研究発表会以外に、各学年1回の校内授業研究会を行っている。授業研究会では、タブレット端末を使った授業やALT・英語教育支援員との授業、オリジナルチャンツを活用した授業等の提案を行っている。毎回の授業では先に示した5つの点を意識しながら、単元の構成や本時の授業展開を考え、「伝え合う喜びを感じられる児童」を目指して校内授業研究を行っている。

(3) ミニ研修会の実施

職員会議や研修会の後の少しの時間や放課後の空き時間を活用し、教職員の英語運用能力向上のために、ワークショップ等を中心としたミニ研修会を行っている。絵本や紙芝居の読み聞かせを教員同士で行ってみたい、児童を褒める言葉等のクラスルーム・イングリッシュ、授業の最初と最後の担任による「お話 (short speech)」の例などについて知り、実際に使ってみたりしている。また、研修を企画・運営する教員を輪番にすることで各自の英語力向上につながっている。



4 小中連携

(1) 小学校学級担任と中学校英語科教員によるチーム・ティーチング

平成28年度より、6年生の外国語活動の授業に、毎週1時間中学校英語科教員が、T2として入っている。実際に小学校で授業を行うことは、中学校英語科教員にとって、児童の実態を直接肌で感じ

だけでなく、小学校の外国語活動の内容を知ること、中学校英語科への円滑な移行と小学校・中学校それぞれに適した指導方法について考えるきっかけとなっている。また、小学校教員にとっては専門的な知識を得る機会になり英語運用能力の向上にもつながっている。

打ち合わせなどの時間がなかなか確保できない状況はあるが、授業の1週間前には小学校学級担任が授業の略案を中学校英語科教員にメールで送付し、当日の朝に簡単な打ち合わせを行って授業に臨んでいる。中学校英語科教員の専門性を生かし、より自然な発音や表現を教えたり、小学校の授業や児童の様子を共有したりし、小学校外国語活動から中学校英語科へのスムーズな移行を目指している。



(2) 3校外国語活動・英語科主任会の実施

毎月1回、3校の外国語活動・英語科主任が集まり、研究の方向性や主題を話し合ったり各校の取組を共有したりしている。平成26年度には低学年の短時間学習や中学年・高学年の短時間学習を含めたカリキュラムの作成を行った。平成27年度以降は、取組の振り返りや4部会で話し合われた内容の共通認識、夏季研修会の企画・運営、児童生徒の実態把握なども行っている。

(3) 各校研究発表会への参加

平成25年度より、各校が外国語活動・英語科授業研修会を行い、小学校2校の教員と久世中学校の英語科教員が、授業を通して、指導方法や単元の構成について意見を交換したり、各校の現状等を伝えたりしている。小学校の取組を通して中学校で引き続き大切にしたいことや、中学校の現状から小学校外国語活動で大切にしたいこと、小中それぞれの授業をどのように改善することで小中連携を進めていくかなどについて話し合っている。

(4) 年度当初及び夏季合同研修会の実施

毎年、年度当初及び夏季3校合同研修会を開催し、講師から話を聞いたり、お互いの取組や課題等を共有したり、教職員の英語運用能力向上を目的としたワークショップを行ったりしている。ワークショップでは『Hi, friends! 2』「Lesson 7 We are good friends.」の単元で、3校教員がグループとなり、オリジナル劇を考え発表したり、各校で行っている単元導入時に児童に示す単元最後のコミュニケーション活動のデモンストレーションや動画を紹介したりしている。



- 「9年間で児童生徒を育てる」という考えのもと、小小連携・小中連携の取組を通して、様々な側面から児童生徒の実態を把握し、教員の共通理解を図ることが大切である。
- 同じ中学校区の小学校同士で連携を密にし、共通の取組や共同の授業研究会を行い、日々の指導や授業づくりに生かすことが大切である。



小学校学習指導要領 ● 第4章 外国語活動(抜粋)

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

第2 各言語の目標及び内容等

英 語

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕の三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

- ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
- イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
- ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

(2) 話すこと〔やり取り〕

- ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。
- イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。
- ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

(3) 話すこと〔発表〕

- ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。
- イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。
- ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

2 内容

〔第3学年及び第4学年〕

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴等に関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。

- ア 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。
- イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。
 - (7) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
 - (4) 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと。
 - (9) 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深めること。

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。

イ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2) に示す事項については、(1) に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。

ア 聞くこと

(ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を分かったりする活動。

(イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。

(ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。

イ 話すこと [やり取り]

(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。

(イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。

(ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。

ウ 話すこと [発表]

(ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。

(イ) 自分の好き嫌い、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。

(ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。

ア 言語の使用場面の例

(ア) 児童の身近な暮らしに関わる場面

・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域の行事 ・子供の遊び など

(イ) 特有の表現がよく使われる場面

・挨拶 ・自己紹介 ・買物 ・食事 ・道案内 など

イ 言語の働きの例

(ア) コミュニケーションを円滑にする

・挨拶をする ・相づちを打つ など

(イ) 気持ちを伝える

・礼を言う ・褒める など

(ウ) 事実・情報を伝える

・説明する ・答える など

(エ) 考えや意図を伝える

・申し出る ・意見を言う など

(オ) 相手の行動を促す

・質問する ・依頼する ・命令する など

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては、第5学年及び第6学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意

しながら、次の事項に配慮するものとする。

- ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。
- イ 学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語活動の目標の実現を図るようにすること。
- ウ 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す事項について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行うこと。
- エ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。
- オ 外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする。
- カ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- キ 学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

(2) 2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 英語でのコミュニケーションを体験させる際は、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定すること。
- イ 文字については、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして取り扱うこと。
- ウ 言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解させるようにすること。
- エ 身近で簡単な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、相手とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については、個々の児童の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。
- オ 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。
- カ 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 外国語活動においては、言語やその背景にある文化に対する理解が深まるよう指導するとともに、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を行う際は、英語を取り扱うことを原則とすること。
- 2 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、外国語活動の特質に応じて適切な指導をすること。

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

第2 各言語の目標及び内容等

英 語

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

- ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
- イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
- ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

(3) 話すこと〔やり取り〕

- ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
- イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
- ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと〔発表〕

- ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

(5) 書くこと

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親

しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

2 内容

〔第5学年及び第6学年〕

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次に示す言語材料のうち、1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

ア 音声

次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。

- (7) 現代の標準的な発音
- (4) 語と語の連結による音の変化
- (9) 語や句、文における基本的な強勢
- (1) 文における基本的なイントネーション
- (4) 文における基本的な区切り

イ 文字及び符号

- (7) 活字体の大文字、小文字
- (4) 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号

ウ 語、連語及び慣用表現

- (7) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語
- (4) 連語のうち、get up, look atなどの活用頻度の高い基本的なもの
- (9) 慣用表現のうち、excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcomeなどの活用頻度の高い基本的なもの

エ 文及び文構造

次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

(7) 文

- a 単文
- b 肯定、否定の平叙文
- c 肯定、否定の命令文
- d 疑問文のうち、be動詞で始まるものや助動詞(can, doなど)で始まるもの、疑問詞(who, what, when, where, why, how)で始まるもの
- e 代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの
- f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの

(4) 文構造

- a [主語＋動詞]
- b [主語＋動詞＋補語]のうち、

主語＋be動詞＋	名詞 代名詞 形容詞
----------	--
- c [主語＋動詞＋目的語]のうち、

主語＋動詞＋	名詞 代名詞
--------	---

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2) に示す事項については、(1) に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。

ア 聞くこと

(ア) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。

(イ) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。

(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。

イ 読むこと

(ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。

(イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。

(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。

(エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。

ウ 話すこと [やり取り]

(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。

(イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。

(ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。

エ 話すこと [発表]

(ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。

(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。

(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

オ 書くこと

(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。

(イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。

(ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。

(エ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。

② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。

ア 言語の使用場面の例

(7) 児童の身近な暮らしに関わる場面

・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域の行事 など

(4) 特有の表現がよく使われる場面

・挨拶 ・自己紹介 ・買物 ・食事 ・道案内 ・旅行 など

イ 言語の働きの例

(7) コミュニケーションを円滑にする

・挨拶をする ・呼び掛ける ・相づちを打つ ・聞き直す ・繰り返す など

(4) 気持ちを伝える

・礼を言う ・褒める ・謝る など

(9) 事実・情報を伝える

・説明する ・報告する ・発表する など

(1) 考えや意図を伝える

・申し出る ・意見を言う ・賛成する ・承諾する ・断る など

(4) 相手の行動を促す

・質問する ・依頼する ・命令する など

3 指導計画の作成と内容の取扱い

- (1) 指導計画の作成に当たっては、第3学年及び第4学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

イ 学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

エ 児童が英語に多く触れることが期待される英語学習の特質を踏まえ、必要に応じて、特定の事項を取り上げて第1章総則の第2の3の(2)のウの(4)に掲げる指導を行うことにより、指導の効果を高めるよう工夫すること。このような指導を行う場合には、当該指導のねらいやそれを関連付けて指導を行う事項との関係を明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。

オ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

カ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

キ 学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

- (2) 2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 2の(1)に示す言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、児童の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。

イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して2の(1)のアに示す言語材

- 料を指導すること。また、音声と文字とを関連付けて指導すること。
- ウ 文や文構造の指導に当たっては、次の事項に留意すること。
- (ア) 児童が日本語と英語との語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにするために、効果的な指導ができるよう工夫すること。
 - (イ) 文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。
- エ 身近で簡単な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他者とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については、個々の児童の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。
- オ 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。
- カ 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。
- (3) 教材については、次の事項に留意するものとする。
- ア 教材は、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成するため、1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げること。
 - イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。
 - (ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。
 - (イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。
 - (ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うことに役立つこと。

その他の外国語

その他の外国語については、英語の1に示す五つの領域別の目標、2に示す内容及び3に示す指導計画の作成と内容の取扱いに準じて指導を行うものとする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 外国語科においては、英語を履修させることを原則とすること。
- 2 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。

新教材で扱われる語彙一覧 ● カテゴリー分類

※今後、教材誌面・デジタル教材開発の過程で、語彙が変更される可能性がある。

(1) 動作

brush	buy	check	clean	cook	dance	do
draw	drink	eat	enjoy	get	go	have
join	jump	leave	like	live	look	make
meet	plant	play	practice	put	read	ride
run	see	set	sing	sit	speak	spell
stand	stop	study	swim	take	thank	think
touch	try	turn	visit	wake	walk	want
wash	watch	ate	enjoyed	saw	went	

(2) 状態・気持ち

active	beautiful	best	big	bitter	closed	cold
cool	delicious	exciting	famous	fantastic	fast	favorite
fresh	fun	funny	furry	hard	high	hot
interesting	junior	long	lovely	many	much	new
nice	old	open	popular	right	round	salty
shiny	short	small	soft	sour	special	strong
sweet	traditional	welcome	wonderful	brave	busy	cheerful
cute	fine	friendly	gentle	good	great	happy
hungry	kind	sad	scary	sleepy	sorry	tired

(3) 飲食物

bacon	beef	dessert	drink	egg	fish	food
fruit	meat	noodle	pork	curry and rice	French fries	fried chicken
grilled fish	hamburger	macaroni	omelet	pizza	rice ball	salad
sandwich	spaghetti	steak	table roll	apple	banana	cherry
grape	kiwifruit	lemon	melon	orange	peach	pineapple
strawberry	watermelon	cabbage	carrot	corn	cucumber	green pepper
lettuce	mushroom	nut	onion	potato	tomato	cake
chocolate	donut	ice cream	jam	parfait	pie	popcorn
pudding	snack	coffee	Japanese tea	juice	milk	mineral water
soda	soup	tea				

(4) 数

one	two	three	four	five	six	seven	eight
nine	ten	eleven	twelve	thirteen	fourteen	fifteen	sixteen
seventeen	eighteen	nineteen	twenty	thirty	forty	fifty	sixty
seventy	eighty	ninety	hundred	zero	first	second	third
fourth	fifth	sixth	seventh	eighth	ninth	tenth	eleventh
twelfth	thirteenth	fourteenth	fifteenth	sixteenth	seventeenth	eighteenth	nineteenth
twentieth	thirtieth						

(5) 学校生活

arts and crafts	calligraphy	cooking	English	home economics
Japanese	math	moral education	music	P.E.
science	social studies	boys' room	classroom	computer room
entrance	girls' room	gym	library	office
playground	room	school	alphabet	class
club	principal	recess	school nurse	subject
crayon	eraser	glue stick	ink	letter
marker	notebook	pen	pencil	pencil case
pencil sharpener	ruler	scissors	stapler	drama festival
entrance ceremony	field trip	graduation ceremony	music festival	school trip
sports festival	swimming meet	volunteer day		

(6) 町・施設・職業

amusement park	aquarium	block	bookstore	bridge
convenience store	corner	department store	exit	fire station
flower shop	gas station	hospital	house	menu
museum	park	police station	post	post office
restaurant	sale	shrine	station	street
supermarket	temple	town	zoo	bus
jet	taxi	yacht	artist	astronaut
baker	baseball player	bus driver	comedian	cook
dentist	doctor	farmer	flight attendant	florist
hero	king	nurse	pilot	police officer
queen	singer	soccer player	teacher	vet
zoo keeper				

(7) 日常生活

bath	bed	bicycle	book	box	calendar	chair
cleaning	clock	computer	cup	desk	dish	garbage
home	homework	magnet	newspaper	table	telephone	TV
bag	boots	cap	gloves	hat	pants	rain boots
raincoat	shirt	shorts	sneakers	sweater	T-shirt	umbrella
watch	wheelchair	drum	piano	recorder	guitar	violin
breakfast	dinner	lunch				

(8) スポーツ

archery	athletics	badminton	baseball	basketball
boxing	canoe	climbing	cycling	dodgeball
football	gymnastics	rugby	sailing	soccer
surfing	swimming	table tennis	tennis	track and field
volleyball	weight lifting	wrestling	Olympic Games	Paralympic Games
sport	team	bat	racket	

(9) 色・形

color	black	blue	brown	green	orange	pink
purple	red	white	yellow	circle	cross	diamond
heart	rectangle	square	star	triangle		

(10) 季節・月・曜日・時間

spring	summer	autumn	fall	winter	January	February
March	April	May	June	July	August	September
October	November	December	Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday
Thursday	Friday	Saturday	time	day	year	morning
afternoon	a.m.	p.m.				

(11) 国

Australia	Brazil	Canada	China	Egypt	France	Germany
India	Italy	Japan	Korea	Peru	Russia	Spain
Thailand	the UK	the USA				

(12) 動植物

animal	bear	cat	chicken	cow	dog	elephant
gorilla	horse	monkey	mouse	owl	panda	pig
rabbit	raccoon dog	sheep	snake	tiger	wild boar	dragonfly
grasshopper	moth	spider	dragon	flower	nest	tree

(13) 自然・天気

beach	lake	mountain	river	sea	star	sun
cloudy	rainy	snowy	sunny	nature	rainbow	weather

(14) 祝祭日・趣味・遊び

Boys' Festival	Girls' Festival	New Year's Day	Snow Festival	Star Festival	camping
firework	fishing	hiking	jogging	playing	reading
shopping	festival	vacation	ball	bingo	card
game	jump rope	marble	tag	unicycle	

(15) 人と身体

I	my	me	you	your	we	our
us	he	she	boy	girl	father	mother
brother	sister	friend	grandfather	grandmother	grandparent	ear
eye	face	hand	head	knee	leg	mouth
nose	shoulder	teeth	toe			

(16) その他 (抽象語)

birthday	culture	dream	future	hint	luck	memory	name	nickname
party	place	stroke	treasure	world	news	left	right	straight

(17) その他 (ことば)

a	the	be	am	are	is	was	it	that
this	can	can't	do	don't	would	about	around	at
by	for	from	in	inside	on	outside	to	under
again	always	away	down	here	never	not	off	out
so	sometimes	up	usually	very	well	what	when	where
who	why	how	because	but	goodbye	hello	hi	yes
no	let's	please						

新教材で扱われる表現例一覧 ● 言語の働き分類

3年生

Unit	表現例	中心となる言語の働き例
1	Hello. I'm (Hinata). Hi. Goodbye. See you.	(ア) コミュニケーションを円滑にする
2	How are you? I'm (happy).	(ア) コミュニケーションを円滑にする
3	How many (apples)? Ten (apples). Yes./No. That's right. Sorry.	(イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える
4	I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do./No, I don't. I don't like (blue).	(イ) 気持ちを伝える
5	What do you like? I like (tennis). What (sport) do you like? I like (soccer).	(イ) 気持ちを伝える
6	(Card 'A'), please. Here you are. Thank you. You're welcome.	(ア) コミュニケーションを円滑にする (イ) 気持ちを伝える (オ) 相手の行動を促す
7	What do you want? (A star), please. Here you are. This is for you. Thank you. You're welcome.	(ア) コミュニケーションを円滑にする (イ) 気持ちを伝える
8	What's this? Hint, please. It's (a fruit). It's (green). It's (a melon). That's right.	(ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える (オ) 相手の行動を促す
9	Are you (a dog)? Yes, I am./No, I'm not. Who are you? I'm (a dog). Who am I? Hint, please.	(ウ) 事実・情報を伝える (オ) 相手の行動を促す

Unit	表現例	中心となる言語の働き例
1	Hello. I like (strawberries). Goodbye. Good [morning/afternoon]. See you.	(ア) コミュニケーションを円滑にする (イ) 気持ちを伝える
2	How's the weather? It's [sunny/rainy/cloudy/snowy]. Let's (play cards). Yes, let's. Sorry. Stand up./Sit down./Stop./Walk./Jump./Run./ Turn around.	(イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実・情報を伝える (オ) 相手の行動を促す
3	What day is it? It's (Monday). Do you like (Mondays)? Yes, I do./No, I don't. I like (Mondays).	(イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実・情報を伝える
4	What time is it? It's (8:30). It's (homework time). How about you?	(ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える
5	Do you have (a pen)? Yes, I do./No, I don't. I [have/don't have] (a pen). This is for you.	(ア) コミュニケーションを円滑にする (ウ) 事実・情報を伝える
6	Look. Hint, please. How many letters? Do you have (a 'b')? That's right. Sorry, try again. What's this? I have (six). Yes, I do./No, I don't.	(ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える (オ) 相手の行動を促す
7	What do you want? I want (potatoes), please. How many? (Two), please. Here you are. Thank you.	(イ) 気持ちを伝える (エ) 考えや意図を伝える
8	Go straight. Turn [right/left]. Stop. This is (the music room). This is my favorite place. Why? I like (music).	(イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実・情報を伝える (オ) 相手の行動を促す
9	I wake up (at 6:00). I go to school. I take a bath. I eat breakfast (at 7:00). I go home.	(ウ) 事実・情報を伝える

5年生

Unit	表現例	中心となる言語の働き例
1	Hello, I'm (Saki). My name is (Kosei). How do you spell it? I [like/don't like] (blue). What (sport) do you like? I have (old balls). Nice to meet you. K-o-s-e-i. I like (soccer) very much. I want (a new ball).	(ア) コミュニケーションを円滑にする (イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実・情報を伝える
2	When is your birthday? Do you like (soccer)? I [like/don't like] (soccer). What (sport) do you like? What do you want for your birthday? Here you are. You're welcome. My birthday is (August 19th). Yes, I do./No, I don't. Do you want (a ball)? I want (a pen). Thank you. Happy birthday.	(ア) コミュニケーションを円滑にする (イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実・情報を伝える
3	Do you have (P.E.) on (Monday)? What do you study on (Monday)? Are you (a teacher)? I'm (a nurse). Yes, I do./No, I don't. I study (math). Yes, I am./No, I'm not.	(ウ) 事実・情報を伝える
4	What time do you (get up)? I always (wash the dishes). I usually (get up) at (7:00).	(ウ) 事実・情報を伝える
5	Can you (sing well)? [I/You/He/She] [can/can't] (sing well). Yes, I can./No, I can't.	(ウ) 事実・情報を伝える
6	Where do you want to go? Why? I want to [see/go to/visit] (Colosseo). I want to eat (spaghetti). You can (play soccer). I want to go to (Italy). I want to buy (a soccer ball). It's (cool).	(イ) 気持ちを伝える (エ) 考えや意図を伝える
7	Where is the treasure? Go straight (for three blocks). Turn [right/left] (at the third corner). You can see it on your [right/left]. It's [on/in/under/by] (the desk).	(ウ) 事実・情報を伝える (オ) 相手の行動を促す
8	What would you like? What (food) would you like? This is my special menu. It's for (my brother). How much? I'd like (spaghetti). What's your special menu? It's (100 yen).	(イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える
9	Who is your hero? [He/She] is good at (playing tennis). [He/She] is a good (tennis player). [He/She] can (cook well). Can [you/he/she] (play baseball well)? Are you a good (baseball player)? Why? This is my hero. [He/She] is (kind). [He/She] is (cool).	(ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える

Unit	表現例	中心となる言語の働き例
1	I'm from (Shizuoka). I [like/play] (soccer). I want to go to (Brazil). My birthday is (August 19th). What (subject) do you like? My nickname is (Ken). I can (play soccer well). I want to watch (soccer games).	(ア) コミュニケーションを円滑にする (イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える
2	Welcome to Japan. In (summer), we have (Star Festival). I [like/enjoy] (<i>rakugo</i>). Why do you like it? We have (<i>sushi</i>). It's (delicious).	(ア) コミュニケーションを円滑にする (イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える
3	I am (Ken). I [have/want] (a new ball). I study (math). I can [swim/cook/skate/ski/sing/dance]. I can (play baseball well). Who is this? I [like/play] (baseball). I eat (spaghetti). [He/She] is [famous/great].	(ア) コミュニケーションを円滑にする (イ) 気持ちを伝える (ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える
4	We [have/don't have] (a gym). We can (play basketball). We can enjoy (jogging). (Sakura-cho) is a nice town.	(ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える
5	I went to my (grandparents' place). I enjoyed (fishing). I saw (the blue sea). It was (fun). It was (exciting). It was (beautiful).	(ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える
6	What sport do you want to watch? I want to watch (wheelchair basketball) on TV. Why? (He) is good at (playing tennis). I like (basketball). (He) is a great (tennis player).	(イ) 気持ちを伝える (エ) 考えや意図を伝える
7	What's your best memory? My best memory [is/was] (our school trip). We went to (Kyoto). We saw (old temples). We ate (Japanese foods). We enjoyed (the trip).	(ウ) 事実・情報を伝える (エ) 考えや意図を伝える
8	What do you want to be? Why? I can (save animals). I want to be (a vet). I like (animals). That's good. Good luck.	(ア) コミュニケーションを円滑にする (イ) 気持ちを伝える (エ) 考えや意図を伝える
9	I want to join the (soccer club). I want to read many books. I want to study hard. I want to make many friends.	(イ) 気持ちを伝える (エ) 考えや意図を伝える

執筆・編集協力

内田由香利（宮若市立宮若西小学校）
梅田幸重（勝山市教育委員会）
大城 賢（琉球大学）
大田亜紀（篠栗町立篠栗小学校）
勝部佳純（多治見市立笠原小学校）
酒井英樹（信州大学）
坂田美佳（鳴門市林崎小学校）
佐藤美智子（鳴門教育大学 小学校英語教育センター）
鈴木 渉（宮城教育大学）
武部八重子（岐阜市立長良東小学校）
フェネリー・マーク（四国大学）
藤村 徹（京都市教育委員会）
松川禮子（岐阜県教育委員会）
水上直子（福井県教育委員会）
山田誠志（岐阜県教育委員会）



文部科学省

事例提供

福井県教育委員会
川崎市総合教育センター
福岡県教育委員会
福岡県教育センター
京都市立大藪小学校

デザイン・イラスト

伊藤幸恵

CD制作

橋本 寛（ジェイルハウス・ミュージック）

録音

パワーハウス・スタジオ

ナレーション

ルミコ・バーンズ／ハワード・コレフィールド／
キャロリン・ミラー／桑島三幸

小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック

平成29年6月30日 初版発行

著作権所有 文部科学省

編集 株式会社 旺文社
代表者 生駒大啓
〒162-8680 東京都新宿区横寺町55
電話 03-3266-6400 <http://www.obunsha.co.jp/>

印刷 大日本印刷株式会社
代表者 北島義俊
新宿区市谷加賀町1-1-1
電話 03-6735-6271 <http://www.dnp.co.jp/>
